

一心寺門前浪曲寄席鑑賞会 第6回

令和 6 年 2 月 10 日 (土)、天王寺・一心寺門前浪曲寄席鑑賞のため一心寺南会所に参集しました。親鴨会で浪曲鑑賞会を始めて、今回で6回目です。

前回から「JR 天王寺駅集合」にせず、直接一心寺南会所へ集合としました。

参加者は7名(次ページの写真を参照ください)

今回は珍しく女性がお一人参加くださいました。

コロナ禍はまだ続いていますが、開始時には会場はほぼ満員、浪曲ファンは健在でした。開始の20分前に集合としていましたので、比較的良い席に座ることができました。

浪曲寄席、午後1時開演。本日の演者は4人の浪曲師。京山幸乃、春野美恵子、真山一郎、松浦四郎若、各師です。

京山幸乃師の演題は「木津の勘助」

落語や講談でも取り上げられている題材です。

大阪の一介の貧しい町人勘助が豪商淀屋十兵衛に見込まれて、十兵衛の娘を嫁にもらうお話。今回の話にはありませんが、この後には勘助が淀川の堤防島を築くなど治水に力を尽くし、今は近くの神社に感謝の銅像が建てられているそうです。

京山幸乃師は今年の鑑賞会でも感心しましたが、今回は一段と成長、関西の女性浪曲師として春野恵子師や菊地まどか師に続く若手女流浪曲師として、大いに期待されます。

春野美恵子師の演題は「藤十郎の恋」

中村鴈治郎演ずる歌舞伎でも有名な題目。菊池寛の作品です。

今回の春野美恵子師は声に張りがあまりなく、やや低調のようで、残念でした。

真山一郎師の演題は「北方のふるさと」

最近はロシアとの関係の悪化、択捉へ帰る可能性は益々小さくなりました。

真山一郎師の歌謡浪曲はますます冴えていました。

松浦四郎若師の演題は「差越し願い、伊達騒動」

伊達騒動の物語は「樅の木は残った」をはじめ多々見ますが、今回の「差越し願い」は初めてでした。二人の忠臣の死ぬ覚悟の願い入れ。老中筆頭からの圧力を承知でそれを受け入れようと動く心ある老中。続きが見たいものです。

松浦四郎若師はさすが関西浪曲界トップのお一人。聞かせてくれました。

年に何度か楽しむ浪曲、今回も充実した時間を持つことができました。皆さんにも十分満足していただけたと思います。

参加者全員 記念写真：演者の皆さんが記念写真に、ご一緒頂きました。
有難いことです。



前列：右より
瀬並和弘（後ろに魚
井尚美さんが隠れて
しまいました）
西野信夫、東端幸雄、
西田義雄
後列：右より
有賀清隆、入田泰壽、
松浦四郎若師、
春野美恵子師、
藤初雪曲師？
真山一郎師、
京山幸太師

終了後、男性6名は JR 天王寺駅
近くの居酒屋「吾作どん」で軽く一
杯、
コロナも忘れ、焼き鳥の串を手に、
昔ばなしにふけりました。
これも楽しいひと時です。



来年度もまた「一心寺門前浪曲寄席観賞会」を実施したいと思います。
ご参加の程よろしく願いいたします。

文責：親鴨会関西幹事 西田義雄